

「西阿木名小中学校の伝統芸能継承の取組」

1 学校名

天城町立西阿木名小中学校

2 学年・人数

小学校1年生～中学校3年生（児童9人 生徒11人 計20人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

総合的な学習の時間（年12回）（本校体育館・調べ学習室・シンボルツリーの下）

(2) 発表の日時・場所

西阿木名集落豊年祭（西阿木名集落公民館）

西阿木名集落敬老会（西阿木名集落公民館）

西阿木名集落盆踊り（西阿木名集落公民館）

西阿木名小中学校運動会（本校グラウンド）

西阿木名幼小中学校合同学習発表会（本校体育館）

町内各種行事 等

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称 ア 西阿木名棒踊り

イ 阿木名風土記（あぎな くどうき） 他

(2) 由来

ア 西阿木名棒踊り

明治中期の天城町北部にある松原銅山が操業していた頃、そこで働く鉱夫から伝わり、西阿木名集落に伝承されている。西阿木名集落の棒踊りは、もともと軽快でテンポの良い上州小唄につけて踊られていたが、数年前からは地域の特徴を唄いこんだ歌詞に創作されて唄い踊られている。

イ 阿木名風土記

阿木名風土記は「意見口説」の節に西阿木名出身者によって西阿木名地域の風土が唄われているもので、それに創作された踊りが加えられ、集落民が一緒に踊って楽しむ芸能として今日まで継承されている。日の丸扇子を持って踊ることから豊年祭や敬老会、歳祝などの祝賀行事では必ず披露されている。

(3) 構成等

ア 西阿木名棒踊り

向かい合った2人が1組となり、それを2組並列した正方形の隊形を組む。そして、向かい合った2人が棒を振りかざしたり、棒で受けるなど、180cmほどの棒を打ち合いながら棒術の攻防を唄に合わせて行う。そして、一連の棒の打ち合いが終わると、並んだもう一組と場所を入れ替えるが、場所を入れ替える際に、棒を打ち合わせて入れ替わる。この一連の動作を唄が終わるまで、繰り返す行う。

イ 阿木名風土記

両手に日の丸扇子を持った踊り手が、阿木名風土記の唄に合わせて踊る輪踊りである。踊り手は、円形に並び、踊りながら円周を進む。また、舞台踊り風に横並びに前を向いて踊る。唄い手・三味線弾き手・太鼓（チヂン）の打ち手で構成される。

5 保存会や地域との連携の具体

西阿木名集落は、伝統芸能が数多く継承されている地域で、これまでも集落行事の中で日常的に披露されてきた。30年ほど前から集落有志によって学校の子どもたちに伝承され、毎年の運動会で披露することが恒例となり、現在も続いている。3年前から西阿木名民謡保存会に依頼して、総合的な学習の時間に学校で指導をいただいている。具体的には、西阿木名民謡保存会の方々に直接、学校に来ていただき、西阿木名棒踊りや阿木名風土記の唄を唄ってもらい、それに合わせて児童生徒が踊りの練習を行う。学校で唄も踊りも練習した子どもたちは、集落行事にも積極的に参加し、その成果を披露しており、伝統芸能を介した保存会、地域、学校の交流の循環が形成されつつある。

このような保存会や地域と学校の連携を図るに当たり、地域住民でもある学校職員が大きく尽力している。保存会と学校との調整だけでなく、集落行事への子どもたちの積極的な参加や伝統芸能の意味や踊られた時代背景の子どもたちへの教示など、地域住民である特性を生かして、保存会、地域、学校のよりよい関係づくりに活躍している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

西阿木名棒踊りや阿木名風土記などの唄は、方言で唄われており、児童生徒にとって容易に理解できるものではない。そのため、地域住民である教員や保存会の方々に、これらの伝統芸能の歌詞の意味や踊られた時代背景などを、しっかりと教示することに努めている。

また、夏場や晴れた日などは、校庭にあるシンボルツリーのアカギの木の木陰で自然の風を受けながら郷土学習を実施することにより、保存会の方々や児童生徒がリラックスし、美しい自然も楽しみながら伝統芸能の練習に取り組むことができている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

【唄の意味や背景を学ぶ様子】



【学校行事で披露する様子】



【踊りの練習の様子】



【地域行事で披露する様子】



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

〔児童から〕

- ・ 棒踊りがかっこよくて勇ましいので好き。
- ・ いろいろな唄や踊りが覚えられて、いろいろな場所で発表できるからうれしい。
- ・ 阿木名風土記の踊りやリズムが好き。大人になっても伝統芸能を引き継ぎたい。
- ・ 唄や踊りを学ぶだけでなく、集落行事の「ムチタボレ」に参加して楽しかった。

〔保護者から〕

- ・ 子どもたちが島口を学ぶことは大切だと思う。
- ・ 島口や踊りを通して地域の人と交流することができてよいと思う。
- ・ 学校・地域を愛する心を育てることにつながると思う。
- ・ 唄の中の歴史や思いを後世に伝える意義もあると思う。
- ・ じいちゃん・ばあちゃんを大事にすることになると思う。

〔教職員から〕

- ・ 発表する機会が多く、地域の方からほめていただくことが自信につながっている。
- ・ 郷土の先人の教を学ぶことを通して、郷土を愛する心が育っている。
- ・ 各種地域行事で、卒業生も発表の輪に入り一緒に披露できる姿がとてものもしい。伝統芸能としてしっかり継承されていることを実感する。

〔保存会・地域の方々から〕

- ・ 島唄を通して島口が理解できている。
- ・ 一緒に活動していると、児童生徒が我が子のように思えてかわいい。
- ・ 小中学生が棒踊りをするのが当たり前のようになり、元気がもらえるし楽しみである。